

第 61 期  
中 間 報 告 書

(2020年4月1日から)  
(2020年9月30日まで)

fligan

---

愛眼株式会社

証券コード 9854

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、日ごろより格別のご支援を賜り誠にありがたく厚くお礼申しあげます。さて、当社は2020年9月30日をもって第61期第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申しあげます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が国内外の経済活動に大きな影響を及ぼし、景気が低迷し、大変厳しい状況になりました。国内では、緊急事態宣言解除による経済活動の再開に伴い、個人消費の回復が期待されたものの、新規感染の再拡大に対する不安が依然として拭えず、雇用・所得環境の悪化や消費者マインドの冷え込みによる消費活動への影響の長期化も懸念され、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、お客様並びに従業員の安全・安心の確保を最優先課題と位置づけ、新型コロナウイルス感染予防策の徹底に取り組んでまいりました。また、当社は、2021年に創業80周年、設立60周年を迎えます。お客様からの永年のご愛顧に応えるべく、引き続きお客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策を推進し、新型コロナウイルス感染症の収束後の事業展開を見据えた取り組みも併行して行うとともに、組織面においても、業務の効率化と働き方改革に取り組み、組織の活性化を進めております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は6,550百万円（前年同四半期比22.0%減）となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が期初から5月にかけて顕著に表れ、来店客数が大幅に落ち込んだため、第1四半期連結会計期間は前年同四半期比で35.9%減となりました。当第2四半期連結会計期間は、緊急事態宣言解除を受け、売上は概ね回復したものの、前年9月度の消費増税前の駆け込み需要の影響もあり、前年同四半期比で10.1%減となりました。売上総利益率は主に価格施策や品種別の売上構成比の変化の影響で1.2ポイント上昇しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底を図り、チラシやCMの自粛による広告宣伝費の抑制、その他の販売費の圧縮、休業店舗のテナント家賃の減免、休業や営業時間の短縮による時間外勤務の減少などにより、販売費及び一般管理費は4,953百万円（前年同四半期比10.2%減）となりましたが、売上高販管費率は大幅な売上高の減少が響き10.0ポイント上昇しました。

この結果、営業損失は362百万円（前年同四半期は営業利益274百万円）、経常損失は323百万円（前年同四半期は経常利益305百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は370百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益196百万円）となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は次のとおりです。

### 【眼鏡小売事業】

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応した商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図るとともに、お客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性の確保とマーケティングの強化を通じて、質の高いサービスを提供できる体制の構築に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、期初から5月にかけて新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、ロードサイド店舗以外の一部インショップ店舗における臨時休業や時短営業に加え、外出自粛に伴って一時的に客足が遠のく状況に陥ったことなどが影響した結果、第1四半期連結会計期間において、中心品目のメガネ販売は前年同四半期比で32.6%減少し、

準主力品目の補聴器、サングラスの売上も各々41.2%、54.9%減少しました。6月以降客足は徐々に戻り、当第2四半期連結会計期間におきましては、メガネ販売と補聴器は、前年同四半期比で各々5.8%減、12.0%減まで回復したものの、サングラスは、夏場にかけてのハイシーズン時期の長梅雨・大雨・日照不足などの天候不順や外出自粛の影響に加え、イベント・スポーツなどの屋外活動に対する政府や自治体による注意喚起の広がりもあり、前年同四半期比32.0%減と売上不振の状況が続きました。以上により、当第2四半期連結累計期間においては、メガネ販売は前年同四半期比で18.0%減少し、また、補聴器、サングラスの売上は各々26.5%、42.4%減少し、全体においても前年同四半期比で大幅な減収となりました。

店舗につきましては、神奈川県横須賀市に1店舗を新規出店したことに加え、6店舗で既存店の活性化を目的とした改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は6,294百万円（前年同四半期比21.7%減）、セグメント損失は296百万円（前年同四半期はセグメント利益327百万円）となりました。

#### 【眼鏡卸売事業】

眼鏡卸売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた取引先への販売支援に努めてまいりましたが、取引先の売上不振等によって卸売上額が大幅に減少しました。

この結果、売上高は187百万円（前年同四半期比22.2%減）となり、セグメント損失は6百万円（前年同四半期はセグメント利益2百万円）となりました。

#### 【写真館事業】

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための外出自粛や、緊急事態宣言の発出に伴い全店舗の臨時休業や営業時間の短縮を余儀なくされたことにより、撮影日の変更やキャンセルなどが増え、撮影件数が大幅に減少しました。全店が揃って営業再開した6月以降は、感染予防策としての来店の前予約制度や、成人式や卒業式の着物レンタル事前予約のお客様に対しては、万が一、式典が中止になった場合、キャンセル料を無料とする対応するなど「安心・納得・顧客第一」の方針で取り組んでまいりました。愛写館では、お客様に安全・安心な環境のもとで撮影に臨んでいただけるよう引き続き安全対策を万全にした上で、お客様の人生の節目節目の記念日を感動的で素敵な思い出にできる撮影メニューやお召しいただく素晴らしい衣装や小物を数多く揃え、営業に取り組んでおります。

この結果、写真館事業における売上高は28百万円（前年同四半期比28.0%減）、セグメント損失は27百万円（前年同四半期はセグメント損失41百万円）となりました。

#### 【海外眼鏡販売事業】

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、北京市、天津市所在の直営店やフランチャイズ店では、住民の外出規制の影響を受け、客数は大幅な減少となりましたが、5月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が最悪期を脱し、以降、客足は徐々に戻ってきております。

この結果、売上高は40百万円（前年同四半期比46.4%減）、セグメント損失は15百万円（前年同四半期はセグメント損失5百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご厚情を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2020年12月

代表取締役社長 下 條 三千夫

## 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第58期 (2018年3月期)	第59期 (2019年3月期)	第60期 (2020年3月期)	第61期(中間) (当連結結果計期間) (2021年3月期)
売 上 高(百万円)	16,344	16,231	15,429	6,550
経常利益又は 経常損失(△)(百万円)	317	307	138	△323
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社 株主に帰属する四半期 (当期)純損失(△)(百万円)	181	165	△12	△370
1株当たり当期純利益 又は1株当たり四半期 (当期)純損失(△)	9.34	8.50	△0.64	△19.08
総 資 産(百万円)	16,849	16,686	15,967	15,671
純 資 産(百万円)	14,171	14,223	14,089	13,733
1株当たり純資産額(円)	730.18	732.86	725.97	707.60

## 株式の状況 (2020年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 60,000,000株  
 (2) 発行済株式の総数 21,076,154株  
 (3) 株 主 数 23,791名  
 (4) 大 株 主(上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
有 限 会 社 佐 々 興 産	2,138 千株	11.02 %
愛 眼 共 栄 会	933	4.81
愛 眼 従 業 員 持 株 会	823	4.24
日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	738	3.81
佐 々 栄 治	592	3.05
下 條 三 千 夫	496	2.56
佐 々 千 恵 子	442	2.28
下 條 謙 二	402	2.07
佐 々 善 二 郎	375	1.94
下 條 豊 彦	322	1.66

(注) 持株比率は、自己株式(1,668千株)を控除して計算しております。

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2020. 3. 31現在)	当第2四半期末 (2020. 9. 30現在)	科 目	前期末 (2020. 3. 31現在)	当第2四半期末 (2020. 9. 30現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>8,393</b>	<b>8,393</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,361</b>	<b>1,414</b>
現金及び預金	5,376	5,151	支払手形及び買掛金	443	414
受取手形及び売掛金	636	650	未払法人税等	155	109
有価証券	—	200	賞与引当金	1	132
商品及び製品	2,088	2,060	その他	760	758
原材料及び貯蔵品	32	30	<b>固定負債</b>	<b>516</b>	<b>523</b>
その他	262	302	繰延税金負債	13	19
貸倒引当金	△2	△2	再評価に係る繰延税金負債	6	6
<b>固定資産</b>	<b>7,573</b>	<b>7,278</b>	資産除去債務	328	330
<b>有形固定資産</b>	<b>3,231</b>	<b>3,255</b>	リース債務	6	7
建物及び構築物	1,050	1,037	その他	162	159
土地	1,878	1,878	<b>負債合計</b>	<b>1,878</b>	<b>1,938</b>
その他	301	338	<b>純資産の部</b>		
<b>無形固定資産</b>	<b>84</b>	<b>71</b>	<b>株主資本</b>	<b>16,514</b>	<b>16,143</b>
リース資産	4	—	資本金	5,478	5,478
その他	79	71	資本剰余金	6,962	6,962
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,258</b>	<b>3,950</b>	利益剰余金	5,124	4,754
投資有価証券	672	497	自己株式	△1,051	△1,051
敷金及び保証金	3,187	3,060	その他の包括利益累計額	△2,424	△2,410
その他	398	392	その他有価証券評価差額金	22	37
<b>資産合計</b>	<b>15,967</b>	<b>15,671</b>	土地再評価差額金	△2,471	△2,471
			為替換算調整勘定	24	22
			<b>純資産合計</b>	<b>14,089</b>	<b>13,733</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>15,967</b>	<b>15,671</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期(累計) (2019. 4. 1～2019. 9. 30)	当第2四半期(累計) (2020. 4. 1～2020. 9. 30)
売上高	8,399	6,550
売上原価	2,610	1,959
売上総利益	5,789	4,591
販売費及び一般管理費	5,514	4,953
営業利益又は営業損失(△)	274	△362
営業外収益	61	64
営業外費用	30	25
経常利益又は経常損失(△)	305	△323
特別利益	1	—
特別損失	27	—
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	279	△323
法人税、住民税及び事業税	83	46
法人税等調整額	△0	0
法人税等合計	83	46
四半期純利益又は四半期純損失(△)	196	△370
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	196	△370

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期(累計) (2019. 4. 1～2019. 9. 30)	当第2四半期(累計) (2020. 4. 1～2020. 9. 30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	417	△164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△363	△27
財務活動によるキャッシュ・フロー	△132	△17
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△79	△210
現金及び現金同等物の期首残高	2,662	2,631
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,583	2,421

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 会社の概況 (2020年9月30日現在)

商号	愛眼株式会社
本社設立	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号 1961年1月11日
資本金	5,478百万円
主要な事業内容	当社グループは、眼鏡・サングラスその他関連商品を取り扱う眼鏡専門店チェーンと写真館を展開しております。
従業員数	733名 (ほか平均臨時従業員数411名)
店舗数	眼鏡店 229店舗 写真館 3店舗
連結子会社	2社

## 役員 (2020年9月30日現在)

取締役会長	佐々栄治
代表取締役社長	下條三千夫
取締役	菅野忠司
取締役	下條謙二
取締役	佐々昌俊
取締役	森重洋一
取締役	山田吉隆
常勤監査役	叶雅文
監査役	吉岡一彦
監査役	明石敬子

- (注) 1. 森重洋一及び山田吉隆の両氏は、社外取締役であります。  
2. 吉岡一彦及び明石敬子の両氏は、社外監査役であります。

## 株主優待

3月31日及び9月30日現在、当社の株式を次のとおりご所有の株主様に対し、株主優待割引券を贈呈します。

[メガネ]	・100株以上500株未満ご所有	30%割引券1枚
	・500株以上ご所有	30%割引券2枚
(但し、特別限定品は20%割引)		
[補聴器]	・100株以上ご所有	10%割引券1枚
(但し、特別限定品は除く)		

## 株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 (1) 定時株主総会・期末配当 3月31日  
(2) 中間配当 9月30日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告して  
基準日を定めます。

単元株式数 100株  
株主名簿管理人及び  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人  
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031  
(インターネット  
ホームページURL) [https://www.smtb.jp/personal/agency/  
index.html](https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html)

公告の方法 電子公告  
但し、事故その他やむを得ない事由によって  
電子公告による公告をすることができない場  
合は、日本経済新聞に掲載して行う。

上場証券取引所 東京 市場第一部

---

### <ご注意>

#### 【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

#### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

ホームページアドレス <http://www.aigan.co.jp>